

インドネシアの看護基礎教育課程・実習病院における高齢者看護実践力向上および実習指導スキル強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM） 国立看護大学校

事業名：インドネシアの看護基礎教育課程・実習病院における高齢者看護実践力向上および実習指導スキル強化事業

実施主体：国立国際医療研究センター 国立看護大学校

対象国：インドネシア

事業の種類：

- ・ 日本の医療施設における運営体制、マネジメント（医療従事者の労働・安全管理体制、タスクフティング）・研修・施設管理等の管理運営・人材開発・設備等に関する研修
- ・ 国際的な健康課題（公衆衛生危機、感染症、高齢社会対策、女性とこどもの健康改善、非感染性疾患（NCD）、災害、メンタルヘルス、栄養等）へ対応する研修

事業の背景

インドネシアでは今後も高齢化が進むと予測され、高齢者看護の知識・技術・倫理観をもつ看護実践者の育成が急務である。インドネシアでは、高齢者看護が看護基礎教育で実施され始めているが、臨床と教育の乖離があり、懸け橋となる実習指導者育成が肝要である。

第Ⅰ期令和2～4年度は、看護基礎教育における高齢者看護学実習の指導や評価の在り方、COVID-19下の効果的な実習の研修、高齢者看護学の理論と根拠に基づく技術指導のVR教材作成研修等を実施し、いずれも免許更新研修の認定を受けた。また、作成したVR教材と授業案を用いて模擬授業を実施し評価した。

第Ⅱ期令和5～6年度は、Ⅰ期で修得した内容から「高齢者看護実習指導者研修」カリキュラムを作成し、カリキュラムおよびモジュールを用いて高齢者看護実習指導者研修を実施した。研修実施は、保健省承認のオンライン研修プラットフォームPlatalan Sehatへの掲載が必須条件であり、その掲載によりインドネシア全土で利用可能となり、また保健省から研修修了単位を取得することができる。

事業の目的

本事業は、インドネシア看護師協会（PPNI）と老年看護師協会（IPEGERI）と協働し、高齢者看護学の実習指導者のスキル習得と向上を目的とした。具体的には、PPNIとIPEGERIが実施する保健省承認の高齢者看護実習指導者研修のカリキュラムを作成し実施した。同国内全域の実習指導者の指導スキル向上を通して、高齢者看護の実践能力の向上、高齢者ケアの質改善を目指した。

令和6（2024）年度の「インドネシアの看護基礎教育課程・実習病院における高齢者看護実践能力向上および実習指導スキル強化事業」は、「日本の医療施設における運営体制、マネジメント・研修・施設管理等の管理運営・人材開発・設備等に関する研修」および「国際的な健康課題へ対応する研修」として、インドネシアの高齢社会への対応に呼応する看護基礎教育の実習指導者等を対象とした、効果的な指導スキル向上の研修を行いました。

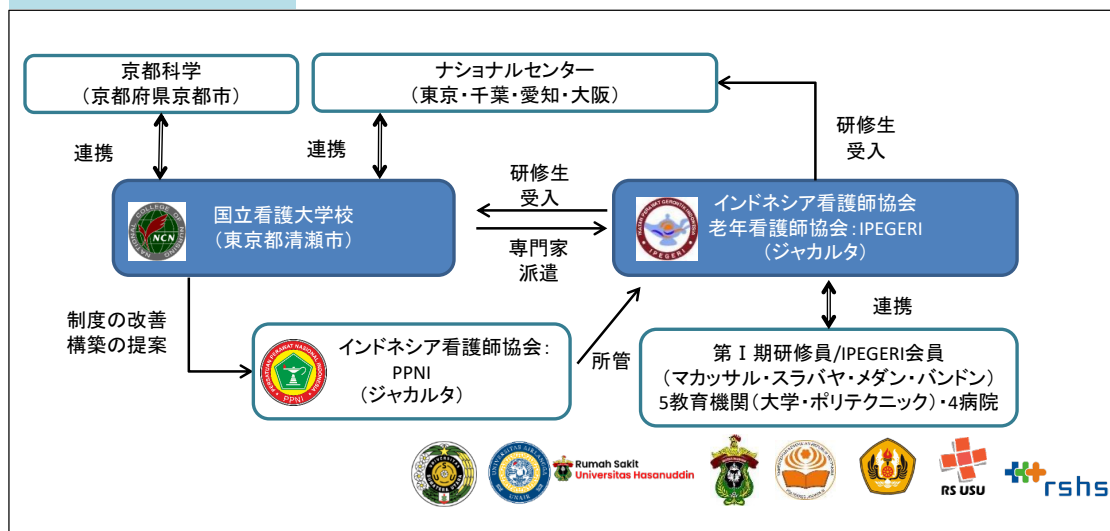
事業の背景としては、インドネシアの高齢化率が2050年までに25%に達する予測が挙げられ、高齢者ケアに特化した知識・技術・倫理観を備えた看護人材の育成が急務となっています。同国では、2010年代より高齢者看護が看護基礎教育と現場研修に組み込まれはじめましたが、高度な実践力習得のためには、臨床と教育の架け橋となる臨床実習指導者の育成が不可欠です。しかし、インドネシアではその育成が十分に進んでいないため、令和2～4年度の第Ⅰ期では高齢者看護学実習の指導方法や評価方法に関する研修を行い、COVID-19下の効果的な実習の進め方を検討しました。理論とエビデンスに基づいた実習指導案やVR教材を共同制作し、模擬授業を通じて評価を行いました。第Ⅰ期では高齢者看護研修が3回実施され、いずれも看護師免許の更新単位認定の研修となりました。

令和5年度より第Ⅱ期を開始し、上記の研修手法を活用した実習指導者研修のカリキュラムとモジュールの構築を進めました。このカリキュラムは、インドネシア看護師協会（PPNI）のレビュー後、保健省の承認を得て、インドネシア全国で使用できるPlatalan Sehatというオンライン研修プラットフォームに掲載されました。これにより、看護師免許の更新研修の一環として実施することが可能となりました。本事業の目的は、PPNIおよび老年看護師協会（IPEGERI）と連携し、インドネシア全域の看護学実習指導者の指導スキル向上を図り、高齢者看護の実践能力向上と高齢者ケアの質の改善を目指すこととしました。

インドネシアの看護基礎教育課程・実習病院における高齢者看護実践力向上および実習指導スキル強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM） 国立看護大学校

実施体制



研修目標

- 「実習指導者研修」のカリキュラムの作成および実施の過程を通し、研修員の高齢者看護学実習の指導スキルが向上する。
- 上記の研修を受けた実習指導者の指導スキルが向上する。

本事業では、国立看護大学校が、日本国内ではナショナルセンター（国立高度専門医療研究センター）と教材作成の専門業者・京都科学と連携して事業を進めました。また、インドネシア国の看護師協会 PPNI の所管する老年看護師協会 IPEGERI をカウンターパートとして事業を進め、第I期の研修員が所属する5教育機関（大学・ポリテクニク）と4関連実習病院の計10機関に所属する IPEGERI メンバーがコアなメンバーとなって事業を展開しました。インドネシア看護師協会 PPNI は、看護師を対象とする研修機関として保健省の承認を受けていることから、本事業内で実施するプリセプター研修の作成過程において IPEGERI にテクニカルアドバイスを提供したり、保健省との橋渡しをしたりする役割を担っています。

本事業の研修目標は、「実習指導者研修」のカリキュラムの計画立案および実施の過程を通し、研修員の高齢者看護学実習の指導スキルが向上すること、研修を受けた実習指導者の指導スキルが向上すること、の2点でした。

インドネシアの看護基礎教育課程・実習病院における高齢者看護実践力向上および実習指導スキル強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM） 国立看護大学校

1年間の事業内容											
令和6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
1. オンライン研修 基礎編Webinar	準備	25日 Webinar 講義テーマ: 認知症・せん妄・嚥下障害	評価								
		講師: NCNP、現地専門家2人 対象: インドネシア実習指導者289人 オンライン研修									
2. 現地研修 動画教材作成指導 (撮影・編集)	準備	渡航	編集	編集	編集	編集	動画完成				
		撮影 in Jakarta 動画: 認知症・せん妄・嚥下障害	講師: NCNJ1人、NCCC1人、NCNJ1人、京都科学1人 対象: IPEGERIメンバー5人 現地研修(ジャカルタ第3ポリテク)								
3. 現地/オンライン研修 実習指導者研修 講師養成(TOT)	TOT研修カリキュラム作成・修正、内容検討							渡航	渡航		
	講師: NCNJ2人、インドネシアMOH3人、インドネシアPPNI1人、IPEGERI11人 対象: インドネシア実習指導者(IPEGERI)30人 オンライン研修							保健省合同ワークショップ	13-16日 TOT		
								保健省承認 Plataran Sehat収載			
4. オンライン研修 TOT受講者が実施するWebinar							Webinar研修カリキュラム作成・修正、内容検討				渡航
							講師: NCNJ5人 対象: Webinar講師30人(TOT受講者)→実習指導者300人 オンライン研修				16日、23日、24日 Webinar

高齢者看護の実習指導者研修の講師養成に向けた技術指導

高齢者看護の実習指導者研修

令和6年度の事業では、主に研修員の IPEGERI 等メンバー 10 人と事業を進め、実習指導者研修の講師養成(Training of Trainers, TOT)カリキュラム作成にかかるテクニカル・インプットを主に行いました。またカリキュラム承認に向け、PPNI や保健省の関係者を招聘した合同ワークショップ(11月)や、研修プログラムで使用する動画教材作成の研修(認知症・せん妄・嚥下障害・プリセプターシップ)も行いました。PPNI や保健省のレビューを受けながら2年間検討を重ねた TOT カリキュラムは、11月に正式に承認されました。

以下、概要を述べますが、各研修の詳細は次スライドをご参照ください。

1) オンライン研修(基礎編 Webinar) :

5月25日、実習指導者研修の受講対象者 289 人に、研修参加の前提となる基礎編 Webinar を行いました。

2) 現地研修(動画教材撮影・編集) :

5月7～11日、日本の事業副責任者が教材作成会社 1 人(京都科学)と共に現地に渡航し、現地で対面による動画教材作成の技術指導を行いました。

3) 現地・オンライン研修(TOT の実施)

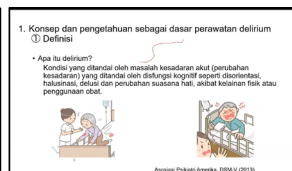
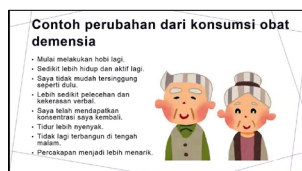
12月13～16日、保健省承認のカリキュラムに基づき、4日間の実習指導者研修 TOT をオンラインで開催しました。保健省・PPNI・IPEGERI の研修員らが講師を担当し、5月の基礎編 Webinar 受講者から選出された 30 人が本 TOT を受講しました。

4) オンライン研修(TOT 受講者が講師となる Webinar の実施と評価)

12月の TOT 受講者 30 人が、今度は講師となって Webinar を行いました。各地域グループ 10 人ずつの講師が 3 グループに分かれ、各グループ地域の受講者 100 人、計 300 人を対象に 1 日 Webinar を 3 回に分けて開催しました。

高齢者看護の実習指導者研修の講師養成(TOT)に向けた技術指導

1. 2024年5月25日: オンライン研修: 基礎編Webinar



日本人講師(専門看護師・認定看護師ら)によるレクチャー(認知症、嚥下障害、せん妄の看護基礎知識)

2. 2024年5月7日～11日: 現地研修: 動画教材作成指導(撮影・編集)



撮影の様子

作成された動画教材
(左上: プリセプターシップ
右上: 認知症
右下: 嚥下障害)

令和6年5月25日、実習指導者研修の受講対象候補者に対して、基礎編 Webinar を実施しました。289人が受講し、IPEGRI 会長から老年看護サービスの動向と課題について学びました。また、日本側からは、認知症は認知症看護認定看護師、嚥下障害は摂食嚥下障害看護認定看護師、せん妄はがん看護専門看護師を講師として招聘し、認知症・せん妄・嚥下障害に関する基礎知識や日本における高齢者ケアの実践について講義してもらいました。講義後は、グループワークで議論を深め、各テーマの看護マネジメントについて発表を行いました。

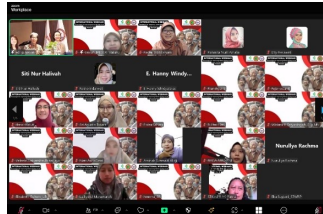
また日程は前後しますが、令和6年5月7～11日、日本の事業副責任者が教材作成会社1人(京都科学)と共に現地に渡航し、現地で対面による動画教材作成の技術指導を行いました。事前にオンライン研修で作成しておいた動画シナリオに沿って、現地の事業関連施設で撮影を行いました。IPEGRI メンバー等の研修員3人が「看護師」「指導者」や「患者」役として参加したほか、5人の学生が「学生」や「患者」役として参加しました。撮影後は、日本に戻って現地とメール・オンライン会議のやり取りを通して編集・修正を行いました。

インドネシアの看護基礎教育課程・実習病院における高齢者看護実践力向上および実習指導スキル強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM） 国立看護大学校

高齢者看護の実習指導者研修の講師養成(TOT)に向けた技術指導

3-1. 2024年11月1-5日 ①現地研修 / ②オンライン研修: ①PPNI・保健省合同ワークショップ / ②IPEGERI全国大会



高齢者看護の実習指導者研修の講師養成(TOT)

3-2. 2024年12月13-16日 TOT

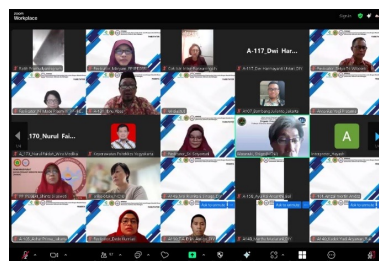


IPEGERIメンバーは
ジャカルタに集合し、
TOTを運営
↓

30人がオンラインで
参加し、MOH、PPNI、
IPEGERIメンバーから
のオンライン講義
4日間を実施



4. 2025年2月16日・22日・23日 TOT受講者が実施するWebinar



Central Java、Jog Jakarta、East Javaの各
IPEGERI支部から10人のTOT受講者が講師と
なり100人を対象にWebinarを実施

令和 6 年 11 月の渡航では、PPNI や保健省の関係者を招聘した合同ワークショップを開催し、TOT 研修のカリキュラム・モジュールの最終決定について協議しました。インドネシア国の保健省および看護師協会の研修方針とのすり合わせも行い、本研修の目的・目標・方法・内容の全体の整合性と一貫性を確認しながら最終調整を図りました。

また、ワークショップに引き続き、IPEGERI の全国大会もオンライン併用で開催され、インドネシア・シンガポール・英国・日本の高齢者看護・医療の専門家から、高齢者ケア、ウェルネス、QOL 向上のためのテクノロジーの活用等について情報交換・意見交換が行われました。日本の登壇者からは、日本の老年看護に関する講演も行いました。

令和 6 年 12 月中旬には、高齢者看護の実習指導者研修 TOT がオンラインで 4 日間、次スライドに詳細を示すカリキュラム・プログラムに沿って開催されました。受講者として、5 月の基礎編 Webinar を受講した 289 人から 30 人が選出され、老年看護学の実習指導者に必要な知識やスキルを学びました。本研修では、PPNI や保健省の専門家と 2020 年からの本事業研修員である IPEGERI 等のメンバーが講義やグループワークのファシリテーターを担当しました。

令和 7 年 2 月には、Central Vava、Jog Jakarta、East Java の IPEGERI 各地域支部ごとに Webinar を開催しました。各地域で、TOT 受講者各 10 人（計 30 人）が講師となって、各 100 人（計 300 人）を対象に Webinar を実施しました。Webinar 実施後には、これら 30 人の講師にグループ別にインタビューを行い、TOT の受講内容を Webinar の準備・実施にどのように活用したか、何を学んだか等の振り返りを聞き取り、評価しました。

インドネシアの看護基礎教育課程・実習病院における高齢者看護実践力向上および実習指導スキル強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM） 国立看護大学校

令和6年12月実施：臨床実習指導者研修の講師養成(TOT)カリキュラム

* Plataran Sehat(インドネシア保健省提供のオンライン研修管理プラットフォーム)に登録済

カリキュラムの構成要素

- ・ 目的、能力、カリキュラムの構造、研修成果の評価

A. 目標

- ・ この研修を受講すると、参加者は基準に従った老年看護学の臨床実習指導者になることができる。

B. 習得が期待される能力：

この研修の修了後、参加者は次のことができるようになる。

1. 認知症高齢者の症例において、老年看護師研修の研修技術を適用する。
2. せん妄のある高齢者の症例において、老年看護師研修の研修技術を適用する。
3. 嚥下障害のある高齢者の症例において、老年看護師研修の研修技術を適用する。
4. 老年看護管理に関する研修技術を適用する。



実習指導者研修の講師養成プログラム(12月13-16日・online)の概要

日	概要	主な研修内容
1	開会式、ガイダンス、 事前評価アンケート 実習指導：総論(講義)	研修の心構え(Building Learning Commitment) 高齢者医療保健の政策指針 高齢者看護の倫理、汚職防止
2	実習指導：各論(講義)	老年看護管理研修における研修手法 せん妄・認知症・嚥下障害のある高齢者のケアと学生指導(講義)
3	実習指導：各論(演習)	せん妄・認知症・嚥下障害のある高齢者のケアと学生指導 (動画視聴、症例検討、演習)
4	試験(ロールプレイ)・ 事後評価アンケート、閉会式	ロールプレイ試験準備 ロールプレイとその評価

こちらは、今年度保健省に承認された、臨床実習指導者研修の研修講師養成カリキュラム TOT と研修の概要です。

カリキュラムの構成要素としては、研修の目的、目標、育成する能力、カリキュラムの構造、学習成果の評価法などが含まれています。

A. 研修目標と B. 習得が期待される能力について、具体的に挙げられています。B の 1～4 は、高齢者に多くみられる症状・徴候のうち、せん妄・認知症・嚥下障害を例として、症例検討や具体的なロールプレイを行うものです。4 日間のうち、2 日目～3 日目まで学習し、4 日目は全体を統合した学びとなるよう、症例をもとにした学生指導のロールプレイを行いました。

インドネシアの看護基礎教育課程・実習病院における高齢者看護実践力向上および実習指導スキル強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM） 国立看護大学校

令和6年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	実習指導者研修TOTのための技術指導 1) オンライン研修: 基礎編Webinar ・講師: IPEGERI等メンバー10人 ・参加: インドネシア看護実習指導者300人 2) 現地研修: 動画教材作成指導 ・参加: IPEGERIメンバー5人 TOTの実施(TOTおよびWebinar) 3) 現地・オンライン研修: 実習指導者TOT研修 ・講師: IPEGERI等メンバー10人 ・TOT受講者: インドネシア看護師30人: pre/post testで関連知識得点率が60%から80%へ20%向上 4) オンライン研修: TOT受講者が実施するWebinar ・TOT受講者50%以上が実習指導者研修を1回以上実施 ・Webinar受講者: インドネシア看護師300人	1) TOTカリキュラムおよび内容、モジュールが策定され保健省に承認 2) IPEGERIメンバーがTOT動画教材6本作成 3) IPEGERIメンバーがTOTを実施し受講者の高齢者看護に関する知識と技術が向上 4) IPEGERIメンバーがTOT評価を2回(3・6か月後)実施: TOT受講生が研修を実施した指導者に関し、看護実習生が「質の高い良い指導を受けられた」と認識・評価し、満足度が向上	・実習指導者研修TOTが、PPNIおよびIPEGERIにより、継続的に実施 ・実習指導者研修TOTが定期的(5年毎)に改訂 ・インドネシア高齢者看護実習指導者の指導にかかる知識および技術が向上 ・PPNIが、高齢者看護学以外の実習指導者研修カリキュラムを作成し実施 ・インドネシア看護師の看護実践能力が向上し看護ケアが実践されることで、インドネシア国の看護の質および医療の質が向上
実施後の結果	実習指導者研修TOTのための技術指導 1) オンライン研修: 基礎編Webinar ・実習指導者研修TOTのための技術指導Webinar ・講師: 日本人専門家(専門看護師・認定看護師)3人 ・ファシリテータ: IPEGERI等メンバー10人 ・参加: インドネシア看護実習指導者289人 ・*関連知識得点: pre/post testで3項目(15%)が向上 2) 現地研修: 動画教材作成指導 ・IPEGERIメンバー3人+他1人+学生5人 TOTの実施(TOTおよびWebinar) 3) 現地・オンライン研修: 実習指導者TOT研修 ・講師: MoH・PPNIメンバー+IPEGERI等メンバー10人 ・TOT受講者: インドネシア看護師30人、pre/post testで関連知識得点率が65.9%から80.2へ14.3%向上 4) オンライン研修: TOT受講者が実施するWebinar: ・TOT受講者計30人が3地域ブロック毎に実習指導者研修Webinarを各1回100人、計300人対象に実施 ・Pre/post testで関連知識得点率55.2%から65.6%へ向上	1) TOTカリキュラムおよび内容、モジュールが保健省より承認 2) IPEGERIメンバーがTOT動画教材6本作成: 編集後、修正2回を経て以下が完成 ①実習指導、②～④認知症看護: 事例1・2・3、⑤せん妄看護、⑥摂食嚥下障害看護 3) PPNI・MOH・IPEGERIメンバーがTOTを実施(12月に4日間): カリキュラムに沿って上記動画の②～⑥も活用し研修を実施 4) TOT受講の30人: 地域ブロック毎に10人が講師となり、各100人対象のWebinarを実施(2月に各1日×3地域: 計300人が受講) ・*Webinar後のインタビュー: TOT受講後の講師30人は、TOTで学習した内容をWebinarで伝達講習することで、自らの知識の定着や指導スキルの向上に役立てられたと述べた。 ・*今後、フォローアップは2回(6・12か月後)実施予定 ・*看護実習生の「質の高い良い指導」の評価や満足度は長期的評価が必要	・実習指導者研修TOTが、PPNIおよびIPEGERIにより、継続的に実施 ・実習指導者研修TOTが保健省提供の研修システムPlatalan Sehatに掲載されたものが定期的に改訂 ・インドネシア高齢者看護実習指導者の指導にかかる知識および技術が向上 ・PPNIが、高齢者看護学以外の実習指導者研修カリキュラムを作成し実施 ・インドネシア看護師の看護実践能力が向上し看護ケアが実践されることで、インドネシア国の看護の質および医療の質が向上

MOH: Ministry of Health保健省、PPNI: インドネシア看護師協会、IPEGERI: インドネシア老年看護師協会、TOT: Training of Trainers

こちらは、今年度の成果指標とその結果です。各オンライン研修と現地研修は、事業内で有機的に連動しながら活動展開しました。

1) オンライン研修では、昨年度から継続している研修員の IPEGERI 等メンバー 10 人が実習指導者研修 TOT カリキュラムとモジュールの作成、研修教材、動画教材の作成を進めました。上述の通り、5 月には TOT の受講前要件となる基礎編 Webinar を開催し、289 人のインドネシア看護実習指導者が受講しました。

2) 現地研修では、動画教材撮影の技術指導を行いました。IPEGERI メンバーが教員・指導者役、学生 5 人が「学生」役や「患者」役で参加しました。撮影前に作成したシナリオに沿って、リアリティのある場面展開となるよう演技・演技指導、動画確認や技術指導を専門家を交えて行い、計 6 本の撮影を行い、その後オンラインで動画編集の確認・修正の技術指導も行いました。

3) 現地・オンライン研修で、実習指導者の TOT 研修実施し、インドネシアの看護師 30 人が受講しました。

4) オンライン研修で、TOT 受講者が実施する Webinar を提供し、TOT 受講者 30 人が講師となり、3 地域ブロック毎に 1 回 100 人ずつ、計 300 人を対象に実施しました。3) と 4) のいずれも、研修前後の関連知識テストの結果、研修前と比べ研修後の得点率が 10 ～ 15% 程度向上しました。従前は曖昧だった知識に関し、高齢者ケアの重要点をふまえた学生指導ポイントを研修で確認したことが、得点向上に繋がったと推察されます。また、Webinar 実施後の講師 30 人へのインタビューから、各自が学習した内容を伝達講習することで、知識定着と指導スキル向上に役立った実感があったとの評価が述べられました。

アウトカムおよびインパクト指標については、今後の全国普及を見据えた中長期的視点での評価が必要です。PPNI・IPEGERI との連携を継続することで、教員・実習指導者の実践力・指導力の向上、学生の理解度向上と実践力の高い看護師の輩出が期待されます。また長期的な視点では、看護師の高齢者看護実践力の向上により、高齢者の健康寿命や長期的な医療アウトカムへの好循環が生じ、高齢者と家族の QOL 向上に資するものと考えられます。

今年度の対象国への事業インパクト

健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者（延べ数）
 - ・ オンライン研修（講義・実習等）を受けた研修員の数：695人
 - － 定例会議計19回開催、参加延数は研修員：76人
 - － 5月の基礎編Webinar（TOT参加の前提条件）参加数：289人
 - － 11月実習指導者研修（TOT）参加数：30人
 - － TOT参加者が講師として開催したWebinar（2/16、22-23）参加数：300人
 - ・ 対象国で現地研修（動画教材作成）を受けた研修員の合計数：9人
 - － 内訳概要：インドネシア看護師協会・老年看護師協会：1人、
インドネシアの大学・学校の教員・管理者、病院の看護師・管理者：3人、学生5人
 - ・ 研修（講義・実習等）を受けた研修員の合計数：704人
 - ・ 過去に研修を受けて講師・専門家となった現地の講師・専門家の合計数：40人
（研修員だった者がその後「講師・専門家」としてTOTやWebinarで講演）
 - ・ その他：
 - － 老年看護学実習の臨床指導者研修の講師研修カリキュラム・モジュールがPlataran Sehat（インドネシア保健省提供のオンライン研修管理プラットフォーム）に登録され、インドネシア全土での研修教材として活用できるようになった。
 - － 認知症・せん妄・摂食嚥下障害のある高齢者のケア技術・実習指導技術とプリセプターシップを学ぶ動画教材を作成し、研修で活用した。

今年度の対象国の健康向上における事業インパクトとして、事業で育成した保健医療従事者数を挙げます。研修員の IPEGERI 等メンバー 10 人は積極的に所属機関や関連団体と連携し、本事業の展開を推進してきました。オンラインでの研修（講義・実習）は、研修員との定例会議が計 19 回、延べ 76 人が参加しました。加えて、5 月の基礎編 Webinar では 289 人、12 月の実習指導者研修では 30 人、2 月の TOT 受講者が開催した Webinar では 300 人が参加し、オンライン研修を受けた研修員の合計数は 695 人となりました。

その他、成果としては、老年看護学実習の実習指導者研修の講師研修 TOT カリキュラム・モジュールが、Plataran Sehat と呼ばれるインドネシア保健省提供のオンライン研修管理プラットフォームに登録され、インドネシア全土での研修教材として活用できるようになったことが挙げられます。さらに、認知症・せん妄・嚥下障害についての高度な高齢者看護ケアや、実習指導の技術を学び、実際に役立てられるような動画教材が完成し、実際に研修で活用されました。

インドネシアの看護基礎教育課程・実習病院における高齢者看護実践力向上および実習指導スキル強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM） 国立看護大学校

これまでの成果

*Webinar参加者にはインドネシア看護師協会の継続教育単位が認定された修了証を発行した。

（第Ⅰ期：令和2～4年度）

- ① 研修員はWeb会議を通じ、日本とインドネシアの看護学教育制度や老年看護学実習の教授法について相互理解を深めた。令和3年度にはケースシナリオを検討し、2つのVR動画を作成、令和4年度にはその画を活用した模擬授業を実施した。
- ② 活動成果発表Webinarの参加者は令和2年度154人、令和3年度01人、令和4年度239人だった。令和4年度には研修員の教育機関・病院でVR教材を用いた授業を実施し、理解度テストの得点率は授業前54.4%・後66.3%と向上、受講者の9割以上が満足と回答した。
- ③ 研修員は指導案作成の議論を重ねることで、事例設定やシナリオ展開、指導ポイントの抽出などを学び、熟練看護師の技術を教材化する力を高めた。

（第Ⅱ期：令和5～6年度）

- ① 保健省の承認を受けた「老年看護学実習の指導者：プリセプターの実習指導能力強化研修（TOT）」のカリキュラムに沿って、令和6年度に4日間のオンライン研修を実施した。研修前後で関連知識に関するテストを行い、研修前と比較し得点率は研修前65.9%から研修後80.2%と14.3%向上した。
- ② TOTカリキュラムはPlatalan Sehat（インドネシア保健省提供のオンライン研修管理プラットフォーム）に登録され、オンラインでの受講が可能になった。
- ③ TOT受講者が講師となり、合計300人に対して1日Webinarを実施し、その後のインタビューでWebinar実施が自らの知識の定着や指導スキルの向上に役立ったと述べた。
- ④ 認知症・せん妄・嚥下障害のある高齢者の実習指導とプリセプターシップに関する教材動画を6本作成した。この動画教材はTOTやWebinarでも活用された。

今後の課題

- ・実習指導者研修の研修講師研修TOTが、インドネシア看護師協会（PPNI）および老年看護協会（IPEGERI）により、継続的に実施される。Platalan Sehatに掲載されたものが定期的に改訂される。
- ・PPNIが、高齢者看護学以外の実習指導者研修カリキュラムを作成し実施する。

これまでの成果として、第Ⅰ期の令和2～4年度は、対象国全国からのWebinar参加者と課題やニーズ・対策を共有した後、実習教材に適する媒体やケースシナリオの検討を行い、VR動画の2事例のケースシナリオを作成しました。作成したVR教材を用いた模擬授業を行い、受講学生・看護師の理解度向上と高い満足度が確認できました。また、これらの活動成果をWebinarで発表し、毎年100～200人以上の参加と、受講学生・看護師の理解度の向上をみとめました（約5割から6～7割）。また、熟練看護師の看護技術と学生指導スキルを意識化し、学生に教える「教材化」の議論をしたことで、研修員の学びを深められました。

第Ⅱ期の令和5～6年度は、「老年看護学実習の指導者：プリセプターの実習指導能力強化研修」のカリキュラムを作成し、保健省の承認を受けて、今年度12月に研修実施となりました。研修受講生は、研修で取得した知識とスキルの普及のため、講師となって計300人を対象にWebinar実施しました。また、高齢者に多い認知症・せん妄・嚥下障害がある高齢者の実習指導とプリセプターシップに関する動画教材を作成し、12月の研修や、研修受講生が開催したWebinarでも活用しました。

今後の課題としては、実習指導者研修の研修講師研修（TOT）が、インドネシア看護師協会（PPNI）および老年看護協会（IPEGERI）により、継続的に実施され、Platalan Sehat掲載の内容が定期的に改訂されることが必要です。また、高齢者看護学以外の実習指導者研修をPPNIが作成し、実施していくことも求められます。

将来の事業計画

医療技術「(高齢者)看護学実習指導スキル」の定着

- ・ 令和2～4年度事業では、老年看護学の授業・実習指導スキル向上のため、教材作成から開始。ワークショップを重ね、実習指導や評価の方法、看護技術指導のポイントを研修員が習得した。
- ・ Webinarでインドネシア全国やCP所属機関の教員・実習指導者へ成果報告したことが次の事業費獲得や研修員拡大に繋がり、組織内の評価向上と研修員の動機付けに貢献した。
- ・ 模擬授業に向けて作成した指導案や動画教材作成のノウハウを体系化したことで、研修員の指導力・教育力・教材作成力の向上、さらにインドネシアの看護師の実践力強化が期待される。
- ・ 令和5～6年度事業では、老年看護学実習の指導者研修カリキュラムを作成し、保健省承認を経て4日間の研修を実施した。研修内容は保健省提供のオンライン研修管理プラットフォーム Plataran Sehatに登録され、老年看護学実習の指導スキルの特徴や老年看護ケア技術を可視化する動画教材を取り入れたことで、実際の指導場面に活用できる効果が期待される。

定着および拡大における課題

1. 全国組織の制度化や国家の政策化：看護師協会と連携し、保健省承認の看護師継続教育制度の一環となった。当該の研修要素とは別の専門的内容や応用編の研修要素を入れ、普及していくことで、指導力・実践力が向上した看護師の確保が期待される。
2. 政策者・組織トップ管理者にも事業の意義・効果を伝え続けることと、現地の予算確保と継続性のため、研修で得られるメリットの可視化やアウトカム目標の設定が必要である。
3. これらを通じ、看護基礎教育における実習指導の標準化がなされ、質の高い看護学生の輩出が継続することで、長期的な高齢者の医療水準の向上に貢献することが見込まれる。高齢者の合併症・併発症の早期発見・対処や減少、日常生活自立度の維持、医療費・入院期間の短縮、ひいてはQOL向上や健康寿命延伸に資する可能性がある。

将来の事業計画です。医療技術「老年看護学実習の指導スキル」定着について、令和2～4年度の研修導入期は、老年看護学の授業・実習の指導スキル向上のための教材作成から始めました。授業案の作成や教材（事例・状況設定・VR動画シナリオ）作成のワークショップを複数回重ねることで、根拠に基づいた実習指導のあり方、評価法、学生指導における看護技術の留意点の引き出し方について、具体的ノウハウが研修員の中に蓄積されていきました。このようなワークショップの体験を年1回のインドネシア全国や研修員の所属機関の教員・実習指導者を対象としたwebinarで成果報告したことが好循環を生み、次の活動や事業費獲得、研修員メンバーの拡大に繋がりました。また、組織の上司や同僚からの承認が、研修員の動機付けにもなりました。模擬授業の指導案や教材作成のノウハウを言語化・体系化したことが、研修員の指導能力の向上、ひいてはインドネシア国の看護師の実践力向上にも繋がるのが期待されます。

令和5～6年度は、医療者の全研修が保健省承認を経てPlataran Sehatへの登録が必要となりました。そのため、老年看護学実習の指導者研修の講師研修カリキュラムも複数回の加筆修正後、今年度11月の保健省承認を得て、12月に4日間の研修を実施できました。そこに、老年看護学実習における指導スキルの特徴や老年看護のケア技術を可視化する動画教材も作成し登録できました。

今後の定着や拡大に向けた課題、出口戦略の考慮点は、次の通りです。

- ① 全国組織の制度化または国家の政策化：看護師協会等と連携し、看護師の継続教育の制度等に反映することで、指導力・実践力を高めた看護師の確保が期待されます。
- ② 現地予算確保のため、政策者・組織トップの管理者にも事業の意義・効果を伝えていくこと、研修によって得られるメリットや効果の可視化・数値化が必要です。
- ③ これらを通じ、看護基礎教育における実習指導の標準化と質の高い看護学生の排出が可能となり、本事業のインパクトとして長期的な高齢者の医療水準の向上に貢献することが見込まれます。

これらのことが、高齢者の合併症・併発症の早期発見・対処や減少、日常生活自立度の維持、医療費・入院期間の短縮、ひいてはQOL向上、健康寿命延伸に資する可能性があります。